

# 社会経済学2 (2012年度後期)

## 第8回: カレツキアン・モデル

担当者: 佐々木 啓明\*

---

\*E-mail: [sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp); URL: <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~sasaki/>

## ——カレツキアン・モデル——

カレツキアン・モデルの特徴.

1. 価格  $p$  はマークアップ・プライシングで決まる.
2. 稼働率  $u$  は内生変数.
3. 実質賃金  $w = W/p$  と利潤率  $r$  は必ずしも対抗関係にない.

## ■ 価格の決定

$$p = (1 + \theta) \frac{W}{a}. \quad (1)$$

$\theta$ : マークアップ率,  $W$ : 貨幣賃金,  $a$ : 労働生産性. これは「カレツキアン・モデルでは利潤シェア  $\pi$  が一定となる」ということを意味する.

## ■ 利潤率の分解

$$\begin{aligned} r &= \frac{\Pi}{pK} = \frac{\Pi}{pK} \times \frac{Y}{Y} \times \frac{Y^*}{Y^*} = \frac{\Pi}{pY} \times \frac{Y}{Y^*} \times \frac{Y^*}{K} \\ &= \pi \times u \times \kappa \\ &= \pi \times u \quad \text{if } \kappa = 1. \end{aligned} \quad (2)$$

$Y^*$ : 潜在産出量,  $u = Y/Y^*$ : 稼働率,  $\kappa = Y^*/K$ : 潜在産出・資本比率.

## ■ 貯蓄関数と投資関数

$$g_s = s_c r = s_c \pi u, \quad (3)$$

$$g_i = \alpha + \beta u, \quad \alpha > 0, \beta > 0. \quad (4)$$

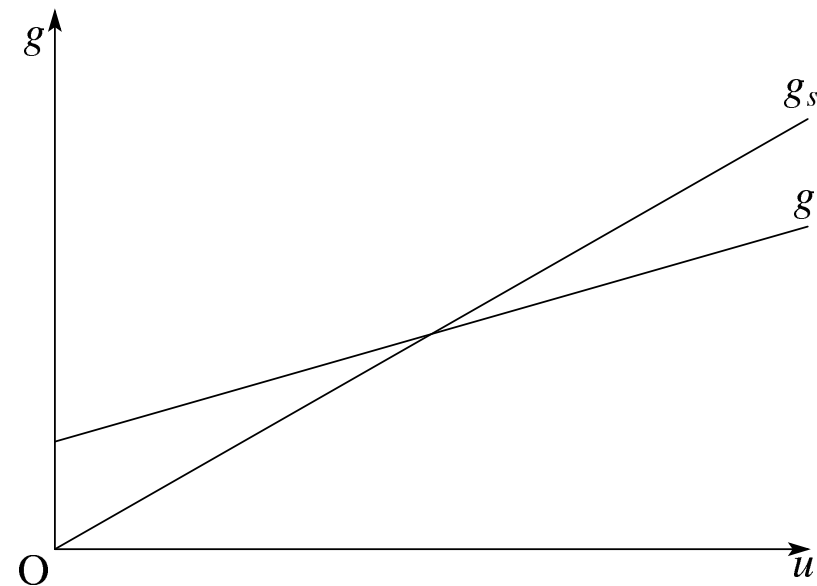


Figure 1: カレツキアン・モデルにおける均衡の決定

## ■ 倅約の逆説と費用の逆説

1. 資本家の貯蓄率  $s_c$  が上昇すると何が起きるか？
2. 実質賃金  $w$  が上昇すると何が起きるか？

## ——拡張その1: 賃金からの貯蓄——

利潤からだけでなく、賃金からも貯蓄することを考える。

$$g_s = [s_w(1 - \pi) + s_c\pi]u \quad (5)$$

$s_w$ : 賃金からの貯蓄率,  $s_c$ : 利潤からの貯蓄率.

投資関数はこれまでどおり.

$$g_i = \alpha + \beta u. \quad (6)$$

マークアップ・プライシングを仮定すると、利潤シェアは一定となる.

$$p = (1 + \theta)\frac{W}{a} \implies \pi = \frac{\theta}{1 + \theta}. \quad (7)$$

## 比較静学分析

1.  $s_c$  が上昇すると?
2.  $s_w$  が上昇すると?
3.  $\pi$  が上昇すると?
4.  $\alpha$  あるいは  $\beta$  が上昇すると?

利潤のみから貯蓄される場合との違いは?

## ——拡張その2: 賃金主導型成長と利潤主導型成長——

これまでは, 利潤シェア  $\pi$  が増大すると,  $g^*$  が低下した. このことを「賃金主導型成長」と呼ぶ.

しかし, 1970年代以降の先進国では, 利潤シェアの低下を伴った低成長が観察された. つまり,  $\pi$  が増大すると  $g^*$  は上昇する. このことを「利潤主導型成長」と呼ぶ.

カレツキアン・モデルで利潤主導型成長を説明できるか?

投資関数を次のように変更する.

$$g_i = \alpha + \beta u + \gamma \pi. \quad (8)$$

$r = \pi u$  の  $u$  と  $\pi$  が別々に影響すると考える.



貯蓄関数はこれまでどおり  $g_s = s_c r = s_c \pi u$ . 財市場の均衡条件  $g_s = g_i$  より,

$$u^* = \frac{\alpha + \gamma \pi}{s_c \pi - \beta}, \quad (9)$$

$$g^* = \frac{s_c(\alpha + \gamma \pi)\pi}{s_c \pi - \beta}. \quad (10)$$

$s_c \pi - \beta > 0$  を仮定する (ケインジアン安定条件).

利潤シェアの増大が成長率に与える影響.

$$\frac{dg^*}{d\pi} = \frac{s_c(s_c \gamma \pi^2 - 2\beta \gamma \pi - \alpha \beta)}{(s_c \pi - \beta)^2} \quad (11)$$

分子の括弧部分を  $f(\pi) = s_c \gamma \pi^2 - 2\beta \gamma \pi - \alpha \beta$  とおく.

$f(\pi) > 0$  であれば,  $dg^*/d\pi > 0$  となって, 利潤主導型成長.

$f(\pi) < 0$  であれば,  $dg^*/d\pi < 0$  となって, 賃金主導型成長.

利潤主導型成長は得られるか?